『女子の武士道』

安岡郷學研究会　第178回講演

作家　石川　真理子

武士道に組み込まれた「徳目」

誠・・・サムライは行動を重んじる

- 仁・・・他者を愛する
- 義・・・打算のない正しい行い
- 礼・・・思いやりの心
- 智・・・大自然や宇宙の真理に通じる叡智
- 信・・・ウソをつかない
- 忠・・・裏切らない
- 孝・・・親・目上の人を敬う
- 悌・・・目下の者（弱者）を思いやる

日本女性のたしなみ（おなごの儀）

- 女徳（女子四徳の教え）

＊婦徳・・・柔和、従順、素直
＊婦言・・・口を慎む、言葉を美しく
＊婦功・・・家事
＊婦容・・・美しい容姿

外国人の証言①

- 「ここでは女性が、東洋の他の国で観察される地位よりもずっと尊敬と思いやりで遇せられているのがわかる。日本の女性はより大きな自由を許されていて、そのためより多くの尊厳と自信を持っている」

（『明治日本滞在記』 グリフィス著）

外国人の証言②

- 家の中で婦人の演ずる役割について、人々の見解が分かれることはない。彼女は独裁者だが、大変利口な独裁者である。彼女は自分が実際に支配しているように見えないところまで支配しているが、それを極めて巧妙に行っているので、夫は自分が手綱を握っていると思っている。そして、可愛らしい妻が実際にはしっかり方向を定めていて、彼女が導くままに従っているだけなのを知らないのだ。

（『英国人写真家が見た明治日本』 ポンティング著）

- 「日本の兵隊の快挙は、決して男子のためだけでない。もし母親から武士道教育を受けなかったら、この成果は挙げることはできなかっただろう。日本の婦人は非常に優しく、おとなしく、謙虚で、同時に大変勇敢であり、我が国の兵隊の勇気は小さい頃に母親から受けた教育の賜物である。一国の歴史上で婦人の果たす役割は大きく、どの国であろうと婦人達が勇敢で優しく謙虚でなければ真に偉大な国民とはいえない。日本の婦人は国に大きな貢献をしているのだ」

（黒木為楨）

戦後男女平等思想の落とし穴

- 「らしさ」の喪失
- 男女の対立がもたらす家庭崩壊
- 社会の基盤が不安定に
- 少子高齢化・核家族

「おなごがデタラメになったら
世の中がデタラメになる」

『女子の武士道』より①

- 目に見えるものにふりまわされぬよう、心の目ひらきなさい

「目に見えるものごとばかりで判断すると、人は迷ったり誤ったりする。まっすぐ生きていくためには、ものごとを心の目で判断せねばならぬ」（P40）

『女子の武士道』より②

- 相手をいたずらに責めず、
  闘わずして勝つのです

「武士は闘わずして勝つことを最善としていたといいますよ」（P91）

『女子の武士道』より③

- やがて世に出る者を育てる意識をしっかりと持ちなされ

＊子は未来の社会を担う存在
＊恥を重んじる＝卑怯な言動を許さない

「人として必要なのは誠。揺るぎない誠実さが備わるような人間になることこそが、子が世のためになり、また子自身も幸福になる術なのです」

（P144）

『女子の武士道』より④

- 明日を案ずるより
  今日を最期と生きるのです

「くよくよ心配するほど暇な時間などありませぬ。これが最期と思うなら、精一杯、明るく幸せに終わりたいと思うだろう」

（P230）

『女子の武士道』より⑤

- 希望を持ちなされ。命ある限り
  希望を無くしてはなりませぬ。

「これまで私が生きてこられたのは、ひとえに希望を失わなかったためです。どんなことになろうとも頼むべくは希望です。命ある限り希望を無くしてはなりませぬ。必ずよくなると、ひたすら信じる心を失のうてはなりませぬ」

（P254）

本物の人生とは
「魂が生き続ける人生」

- 志とは
  - ＊おのれの目指す到達点
  - ＊支え
  - ＊生きる力そのもの、エネルギー

魂は生き続け、語り続ける。先人から継承したものをよりよいかたちで次に繋ぐことが、この世に生を受けた者の役目である。